

編集委員会セッション

「大学院生の投稿先」としての『経営行動科学』の現実と可能性

※グループ・ディスカッションへの参加は要事前登録

1 日時

9月19日（日）10:30～12:00

2 企画

編集委員長 江夏 幾多郎（神戸大学）

3 登壇予定者

江夏 幾多郎（神戸大学），鈴木 竜太（神戸大学），関口 倫紀（京都大学），高尾 義明（東京都立大学），服部 泰宏（神戸大学），開本 浩矢（大阪大学）

4 趣旨

アカデミック・キャリアを志望する大学院生にとって、自らの研究を深めるため、あるいは成果を公表し自らのポスト獲得に繋げるため、学術論文を執筆・投稿し、査読プロセスを通過し最終的な掲載に至ることは極めて重要である。その重要性は年々増しており、大学院生の間に複数の査読付き論文を公刊すること、場合によっては国際ジャーナルへの掲載すら必要になってきている。

『経営行動科学』は、そうした大学院生の野心的あるいは切実な思いに長らく応えてきた。ただし、近年の投稿・審査・掲載状況は、質と量の双方において必ずしも好ましくない。従来と同様、あるいはそれ以上に優秀な大学院生が優れた研究成果を産出し続けているとしたら、そうした大学院生から『経営行動科学』が意味ある投稿先として認知されていない可能性がある。

大学院生の研究や大学院における指導と『経営行動科学』が求めるものとの間に果たしてミスマッチが存在しているのか。もし存在しているとしたらそれはどうクリアできるのか。そもそもクリアできるのか。このセッションでは、まず、『経営行動科学』の編集に編集委員長またはシニア・エディターとして関わる中で見えてくる実情、数多くの大学院生を指導してきた経験から、登壇者が『経営行動科学』が置かれる現状、今後のあり方について意見を述べる。その上で、『経営行動科学』が置かれる現状、今後のあり方について、セッション参加者全体で率直な意見交換を行いたい。

『経営行動科学』が優れた研究を発信する媒体としてだけでなく、大学院生のキャリア形成の一助としてより有益な存在となることを、編集委員会としては強く望んでいる。研究論文を執筆する大学院生、大学院生の研究論文執筆を指導する大学教員など、様々な立場からの「本音ベース」の見解を、そうした充実につなげることができれば幸いである。

5 プログラムの概要

- ・『経営行動科学』の編集方針，2020年4月からの投稿・審査の実態（江夏）
- ・投稿された論文の査読を主幹する立場からの意見（関口，服部，開本）
- ・院生を指導する立場からの意見（鈴木，関口，服部，高尾，開本）
- ・中間総括とグループ・ディスカッションのテーマ提示（江夏）
- ・グループ・ディスカッション（Zoomのブレイクアウトルーム機能を使用）
- ・グループ・ディスカッション内容の全体共有と質疑応答

6 その他

このセッションでは参加可能人数に特に制限は設けませんが，双方向のやりとりを重視しています。双方向でのやりとりに向きになれる方々による参加申し込みを期待します。また，『経営行動科学』を含む学術雑誌への論文掲載に深く関わっているであろう，以下のような方々の参加が特に歓迎されます。会員，非会員の別は問いません。

- 1) アカデミック・キャリアの形成のために研究業績の産出に日々奮闘しておられる方々（特に大学院生を想定していますが，既に研究/教育ポストにある方々も）
- 2) 指導する学生の研究業績の産出を日々支援しておられる方々
- 3) 『経営行動科学』への投稿を経験したことがある方々
- 4) 『経営行動科学』を含む学術雑誌の編集や査読を経験したことがある方々

セッションは登壇者によるパネル・ディスカッション形式で開催されますが，一部の方々にはブレイクアウトルーム機能を使ったグループ・ディスカッションを行っていただきます。ディスカッションへの参加を希望される方は，以下のURLより **2021年9月10日**までに登録願います。

(URL) <https://forms.gle/v1m8e6AArzN1866g7>